

## 第12回学生鉄鋼セミナー製鉄・製鋼コース 実施報告

学生鉄鋼セミナーWG 委員 植田滋（東北大学）

第12回学生鉄鋼セミナー製鉄・製鋼コースが、平成30年10月17日～19日の3日間、新日鐵住金(株)鹿島人材育成センターおよび鹿島製鐵所に於いて開催されました。日本全国の製鉄・製鋼に関する研究室に属する修士の学生22名（製鉄コース12名、製鋼コース10名）が参加しました。

鹿島人材育成センターに集合し、オリエンテーション後、東京工業大学・小林先生から受講生に対し、「セミナー期間中は積極的に参加者と交流し知人友人を増やして帰って欲しい」との開講挨拶がありました。大学・企業各委員の紹介、そして初日のメインイベントである鉄鋼各社からの企業の紹介が行なわれました。（JFE スチール・中瀬委員、神戸製鋼所・中須賀副主査、新日鐵住金・松村委員）。国内の鉄鋼産業の魅力や鉄鋼業界が人材を大切にしていること、また研究開発に多くの予算を投入していることなどの説明を、受講生は真剣に聴いており、鉄鋼業に対する関心の高さが伺えました。開会式を兼ねた夕食会は、中須賀副主査の挨拶、東北大学・植田の乾杯により開宴し、受講生からは緊張気味に研究内容や趣味を交えた自己紹介がありました。夕食会が進むにつれ参加者の交流が活発になった印象を受けました。新日鐵住金 製鋼研究部 加藤部長の締めの挨拶の後、自由懇親会が開催され、受講生・委員間で多様な話題が展開されました。

2日目は、京都大学・柏谷先生の“製鉄プロセス概論”と“座禅の話”、小林先生の“製鋼プロセス概論”が講演されました。その後、各コースに分かれて受講生の研究紹介が行われました。受講生による研究紹介はよく準備されており、本セミナーに熱心に参加していることが良く伝わってきました。受講生からの企業への事前質問に対しては、各社から丁寧な回答があり、今後大学で研究を進める上でのヒントを得る貴重な機会となりました。午後になると受講生間の議論が活発になり、互いの理解や意見を交換する場面が多くなりました。

夕刻からは再び両コース合同で「各社研究開発事例紹介」と題し、企業委員（JFE スチール・市川委員、中須賀副主査）から研究紹介が行われ、企業における研究を知る機会となりました。受講生には鉄鋼業の魅力が伝わったように感じました。

その後の懇親会は新日鐵住金 鹿島製鋼部・菊地室長の挨拶、製鉄部・杉山室長の乾杯で開催されました。恒例の受講生自己紹介が行われました。自身の研究紹介も終わり緊張の解けた受講生の自己紹介は愉快であり、親睦を深めるきっかけとなりました。鹿島製鐵所の若手技術者の参加もあり、受講生は入社後の働き方を垣間見ることが出来ました。東京工業大学・渡邊先生の2日目終了の挨拶の後には、自由懇親会が行われ受講生と委員、受講生同士の密な交流が行われ、受講生は研究をさらに進めて講演大会へ参加することや、鉄鋼業を志す意義を感じられたと思われました。

3日目は、製鉄所全体の概要を紹介頂いた後、鹿島製鐵所に移動し、高炉、転炉、C.C.へ案内いただきました。入社2-3年目の若い技術者からも工程の説明をしていただき、受講生との距離の近さが、現場の理解につながったと感じました。本セミナーの閉会に際して柏谷先生から挨拶を頂き、無事解散となりました。

以上のように、本セミナーは受講生にとって貴重な経験となり、大変充実した内容で活況のうちに終了しました。最後になりましたが、本セミナーの見学・研修に多大なご尽力を頂きました新日鐵住金・松村委員、岡山委員に深く謝意を表します。

